

## 第3回「近現代史の教育のための施設」のあり方検討会

### 次 第

日時：平成24年6月26日（火） 17時～

場所：大阪市公館 1階会議室

#### ○議題

- (1) 施設の目的・考え方、対象者、展示内容・展示の手法について
- (2) その他

#### ○配布資料

- ・『近現代史の教育のための施設』構想（案）
- ・第2回検討会（議事概要）

# 『近現代史の教育のための施設』構想～グローバル社会を担う子どもたちのために～

大阪府市都市魅力戦略会議「近現代史の教育のための施設」あり方検討会)

## 課題認識

- グローバル社会で生きるためには、自国の近現代史(国際関係)をよく知り、きちんと理解することが重要。
- とりわけ、評価が分かれる事柄については、それぞれの考え方を知り、国際社会での日本の立ち位置を認識することが必要。
- 戦争/紛争については多様な見方があり、悲惨な歴史が繰り返されることのないよう、その実相や背景を学ぶことが重要。
- 我が国においては近現代史教育が十分に行われておらず、学べる施設もない。

## 目的

これからの日本を支え、グローバル社会を担う「子どもたち」が

- ・日本の近現代史(国際関係)をしっかり学び
- ・世界と日本の関係を多面的に捉えながら
- ・平和を脅かす諸課題(リスク)をどう乗り越えていくかを自ら考える

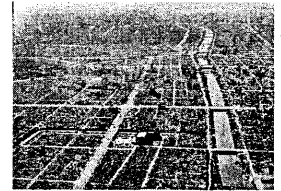
ための施設とする。

## 府/市が作る意義

- 大阪が
  - ・「軍都」の一面を有したこと
  - ・大戦末期の「空襲」で1万人以上が亡くなり廃墟と化したことが記憶を次世代に伝える。
- 大阪の戦争体験を入口として日本の近現代と向き合い、未来の平和について考える場を提供する。



旧大阪砲兵工廠  
(化学分析棟)

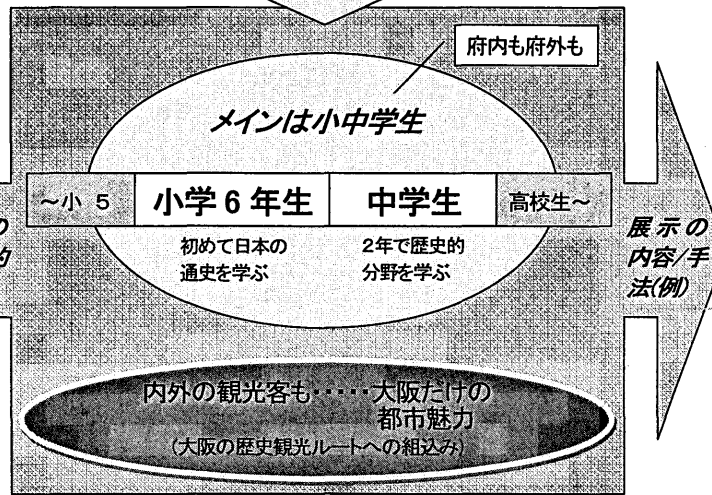


焼け尽くされた  
ミナミ

ターゲット

- 歴史的な遺物の展示ではなく、**歴史の見方を「多面的」「相対的」に示す**
- \* 館は素材を提供するのみ、特定の見方を押し付けない(来館者自身が判断)
- \* 学習指導要領(検定合格教科書)の範囲内を基本とする  
(他国の意見は政府公式見解等による)
- \* 例えば、日本と他国、政府と軍部と民衆の見方を並べて示す
- 事柄だけでなく、その**背景/原因**をしっかりと示す

展示の基本的考え方



- 「大阪に在る近現代史の施設」としての展示
  - …大阪大空襲、大阪砲兵工廠、陸軍第四師団司令部、天保山砲台、大阪会議(花外楼)
- 「参加」「体感」を重視(ハンズオン)
- 映像メディアを駆使……双方向、コンテンツの可変性
- メインターゲット以外の層、さらに知りたい人のニーズにも応える
  - …全周コースとハイライトコース、常設展と特別展/企画展、多言語音声ガイド
- 多様な教育プログラムを準備、提供
  - …学校教育との連携が重要

| 近代                   |         |  | 現代       |  |  |
|----------------------|---------|--|----------|--|--|
| 明治                   | 大正      | 昭和   | 平成       |  |  |
| 日清戦争<br>日露戦争<br>韓国併合 | 第一次世界大戦 | 満州事変<br>日中戦争<br>第二次世界大戦<br>終戦<br>太平洋戦争<br>朝鮮戦争<br>サンフランシスコ平和条約 | ベトナム戦争激化 | ハルリンの壁崩壊<br>ソ連解体<br>世界各地で紛争、内戦<br>日本外交の課題<br>・北方領土、尖閣諸島、竹島…<br>・戦後賠償<br>・靖国神社公式参拝<br>・歴史教科書<br>・北朝鮮による拉致 |  |
|                      |         |  |          |  |  |

# 施設の立地、規模

- ①まったくの新設
- ②ピースおおさかを利用
- ③既存の府有/市有施設の利用

の3案を、コスト、整備期間、立地条件などの観点から検討



## ピースおおさかの活用をベースに検討する※

【理由】・大阪の近代史の1ページである大阪空襲について現に展示中

- ・軍都大阪の中心地だった大阪城エリアに立地
- ・大阪城天守閣、歴博等と関連付けた利用も考え得る
- ・コスト的・期間的に有利・・・知事・市長の任期中の実現可能性が高い

※増築、別館新築(隣接地)、サテライト新設など、展示内容・手法の詰めと並行して検討

ピースおおさかのスペック

鉄骨鉄筋3階建、敷地2,513㎡/延床3,483㎡、常設展示室3、特別展示室、講堂(ホール)、映像コーナー、図書室

## 240621 第2回「近現代史の教育のための施設」検討会（議事概要）

### 1. 施設の目的・考え方（なぜ近現代史を取り扱うのか）

### 2. 対象者（ターゲット）

- 博物館的に資料を見せるなら、（対象は）絞る必要はない。教え方とかティーチャーズキットのあり方により小学生向けにもツールが組めるし、大人が見ても面白いものができる。
- 子ども系でやるべき。

### 3. 展示の内容、手法

#### 【内容】

- 近現代史を全て網羅するのではなく、国際関係があって、そこから戦争が起こり、というのが大筋。それから国家間の関係とか、領土とか、トピックが構成されていく。
- 戦争に至ったことを多義的に示す。第一次大戦、第二次大戦、それぞれの立場で理屈があるということを示すことが必要。（自衛戦争、侵略戦争・・・）
- 進駐軍が大阪の主要な施設を全部おさえていたというようなことを今の子どもたちは知らない。アメリカとの関係どう示すのかはとても大事。（戦前、戦後）
- 大阪は軍により産業振興してきた。日本最大の砲兵工廠、武器生産拠点、「軍都」。軍需産業の一大集積地であり、大陸に物資を送る港湾都市という認識を強く示さないと、その後の平和は際立たない。
- 地域の紛争は、人種、民族として近いもの同士の殺し合いが続いているというのが導入部分。
- 殺し合いは人間の本質的なところで、コミュニケーションをとろうとしたら、ディスコミュニケーションに。結局対立軸が生まれるのが普遍的な大問題。最終的にいやな思いをしたくないから、（出口は）わかり合おうで終わってしまう。ここをどうするかが大きなところ。
- 大阪大空襲は入れないとはいけない。
- 近現代史の中では第二次大戦が大きな要素。
- 単に戦争の悲惨さだけを提示しても平和はやってこない。
- 当時の指導者の間違っただけで戦争になったかのような教え方をしている。色々な要因、国際関係の中で起こったことをきちんと伝えるべき。第二次大戦は経済戦争であり、「経済」を抜きには語れない。
- 明治維新を取りあげてもいい。世界からはかやの外の状態から入って、明治維新、第一次大戦、第二次大戦、冷戦構造くらいの大きなテーマで象徴的なトピックを取り上げてはどうか。
- 「平和は大事、協調が大事」というような単純なオチにはしない。（来館者である）「あなたが考えなさい」ということ。

#### 【見せ方】

##### ■両論併記（両論の見せ方）について

- n個のうちの典型的な二つに過ぎないということをミュージアムのコンセプトとして、最初にちゃんと掲げる。歴史の流れは弱くなるが、トピック中心でいけば、色々な考え方があることを示せるのではないか。
- （両論に）なじむもの（南京事件）となじまないものがある。
- 両論の両にこだわると、むしろ史観を歪めてしまう。無理やり違うものをストーリーでつなげてしまう

ような。逆に間違った史観を作るような順番になってしまう。

- 比較というより、幅のある資料がいる。トピックの中で、(幅を)新聞、論説、資料を淡々と見せてはどうか。
- 歴史観を述べないやり方。両論併記という、両論に引っ張られるところがある。対立する二つがあるように見えるけれども実際は幅がある。単純にどういう幅があるかを見せるやり方もある。(日・中・米の史料で)
- 日本と欧米の主張の資料を淡々と並べるのも一つのやり方。(次にティーチャーズキットとかの工夫がいる。)
- 本営発表と一般の市民とでも意識は違う。軍部と一般の生活者の認識は違う。各国との関係もあるが、国内でも多様な戦争観があった。
- 同じトピックに関して複数の資料、当時の各国のプロパガンダ、ポスター、ニュース映像などをビジュアルに見せないと子どもには違いがわからない。(米英、日のプロパガンダ、レジスタンス)

## ■手法等について

- 来館者が映像を拾うというのがある。ルートによって違う映像が拾える。強制的に見せるのではなくて、偶然に事象に対して多様なものを拾うというのは手法としてできる。
- 科学博物館のようなイメージではないか。子どもがきちんと理解できて、大人もより深く理解できるものにすることが必要。
- 何度も訪れ、学齢に応じた違う感じ方ができるということが大事。
- 施設側では価値付けをしない。
- 裏側の歴史的な経済、イデオロギーの話を見せる。単純に覚えるより、歴史をどう考えるか、歴史の中の色々な要素をどう関連づけるかということ投げかける方が価値がある。幅があることは両立する。
- 子どもには「歴史はどう考えればいいのか、どうしたら知ることができるだろう。」というやり方。
- 楽しんで見れるということも大事。演説とかテレビニュースとか、映像でやるのがいい。
- 単純な問題からもう少し複雑な問題にいくような流れもあった方がいい。
- 「単純から複雑へ」というのは、すべての展示でできるかは微妙。展示は単純なほう良い。展示以外の様々なミュージアム活動、やはり教育プログラムではないか。
- 子どもたちが「なぜ？」と問いかけて、自発的に学習できるような作りが面白い。
- 自発的な問いかけを引き出せるようなティーチャーズキットを用意するとこの施設が生きてくる。
- 子どもには単純明快さと分かりやすさが必要。アタッチメントしやすい大阪ネタをトピックで前面に
- 明暗(軍都と搾取された労働者)、光と影(大阪空襲で攻めた方とされた方)をトピックで出す。
- ルーツを探るような展示。現代から掘り下げて行くようなやり方も効果的。
- 伝える部分と考える部分を相互に繰り返しながら、例えば、東京裁判など、ターニングポイント・エピソードメイキングの部分で立ち止まり掘り下げるやり方も効果的。

## 《教育プログラム、学校との連携等》

- 今、博物館では教育プログラムは大変重要。それを最初から考えながら展示を作ることがキモになる。
- 極めて優秀なエドゥケーターをここにおかないといけない。
- 「単純から複雑へ」というのは、すべての展示でできるかは微妙、難解になる。展示は単純な方がよい。展示以外の様々なミュージアム活動、やはり教育プログラムで対応することではないか。(再掲)

- 大阪の先生は子どもを連れて来ないとなると、とんでもないことになる。博物館は宿命的に来館者は減っていくもの。学校などと連携してシステムティックに来館者が見込める体制を作らないといけない。
- 偏った歴史観を展示しているというような先入観をもたれないように、「考える場所」ということを教師に広く理解してもらうことは絶対的に重要。
- この施設をどう使ってほしいのかという教員への働きかけといったこととも連動させて、この施設を教育的ツールとして使えるか、議論することが大事。
- 先に先生が理解しないと教育として機能しない。歴史観は複数あることをきっちりのみ込ませるティーチャーズキットが必要。
- まず、様々な視点から見た近現代史の資料をリストアップする博物館学的なことをやり、次に、どうまとめるか、どう見せるか、ティーチャーズキットをどう作るかといった教育視点から見直す。この作業を往復させるような感じか。

#### 4. 施設の立地、規模

##### 《施設のイメージ》

- 基幹施設として近現代に係る複数館の活動をコーディネートするというような位置付けもできるのではないかな。←スミソニアン博物館は多くの博物館がぶら下がっている。複数施設により構成される近現代の教育施設というコンセプトはクリアに示せると思う。
- 政治、経済、文化など様々な要素がからまっているので、一体として示した方が教育効果が高いと思う。複数施設でいくなら、施設ごとの「切り方」を考えないといけない。
- 新築よりも、仮設や遊休スペースというよりも、大阪の近現代史を実感できるような空間があればその方がよい。
- 割とコンパクトで、ソフトが常に最大限に駆動している状態というイメージ。大きくなくて良い。中之島の美術館村の一つの住人であっても良いのではないかな。
- 無料スペースで入館者を稼ぐ。(屋外展示、展示ギャラリーなど)
- 単なる施設でなく、拠点として活かす考え方もある。
- 資料の収集、展示だけでなく参加型の学習機会の確保を。

##### 《立地》

- 軍需産業の拠点だったということ意識すれば、今のピースおおさかの場所は非常に意味がある。
- A (新築)、B (ピースおおさか活用)、C (既存の中に入れ込む) の3つがあって、財政とのからみでB案がベーシックな案として考えやすい。
- 大阪城周辺が一番。(砲兵工廠跡、第四師団本部)

##### 《整備手順》

- 任期中にこだわるのなら、パーマネントな建物でなく、3年~5年でやっていく建物をとりあえず建てて、中身を整理して、場合によってはミュージアムの中にもう一回位置付けて移転するという考え方もできる。最初はコンパクトに、お金をかけずに、中身だけ作るというやり方もできるのではないかな。
- お金をかけずにやって、移転の時に完全に移すというやり方もある。
- 仙台の10-BOXみたいにボックスを使っても、どんな中身にしてプロジェクトを動かすかは大きい話。試行的にやってみて、プロジェクトのイメージを周知させる工夫も大切。

#### ◆全体について(資料2ページ)

- 基本的にこれ3段論法で、課題認識があって、目的とターゲットと府・市の意義、全部あわさった目的があって、方法として左右がある。大きくはこの三つしかない。
- 目的と、府市が作る意義のところ、整理が必要。
- その下の左右の文言は少し精査。エドゥケーター等をどう書くのか。
- エドゥケーターの話と、フィールドミュージアムみたいな話、それくらいを盛り込んで。
- ターゲットとこの矢印、目的からターゲットがでているので、この矢印の順番に見なさいという意味以上の意味はない。
- 目的の所にできれば大阪を理解するみたいなことも書いていた方が。「府／市が作る意義」という話も含めると。
- もともと近現代史日本全体の、世界に向かって理解をするということもあるが、同時に大阪あるいはその近辺に住んでる人として、大阪がどうだったのかということも理解してほしい。
  
- 印象として、下の年表はいるのか。この部分、全体に支えるっていう意味で、エドゥケーター的な、どんなふうに関わるのかということに入れ替えられないか。
- イメージとしては、戦後をしっかりとやるということと、スタートは明治維新からぐらい。
- あえて見方が分かれるようなものは、しっかり取り上げるっていうことはあるかも。
- こういう考え方もあるというのを、できればその素材を通して、異なるメディアとかで、レジスタンス的な報道とかを、資料を通して伝えていくとか。

#### ◆施設の目的・考え方

##### 【目的】(資料4ページ)

- このサブタイトルの「グローバル社会を担う子どもたちのために」でいいのか。
- グローバル社会とは何か。
- 「子どもたちが」から始めて、「ための施設」とする。あるいは、グローバルだったら、点を1つ目と2つ目をひっくり返すとか。「世界と日本の関係を多面的に捉えながら」「日本の近現代史をしっかり学び」「平和を脅かす諸課題をどう乗り越えていくかを自ら考える」、1と2ひっくり返した方がグローバルに見える。

#### ◆展示内容・展示の手法

##### 【展示の基本的考え方】(資料7ページ)

- ここで言ってる「素材」は、資料を展示するだけで、それをどう解釈するかというのを押し付けないということ。
- 展示してあるものを淡々と見た場合に、それがあつた種の予見にはならないということ。教科書の幅の中での予見はあるが。
- 素材選びは歴史学者の専門的な知見にゆだねるのではなくて、教科書や大阪の郷土史などの本にあるような、代表的な事物をピックアップして、それを複数の立場から異なる視点を表現するような新聞とかニュース映像とか、そういうのを使いながら展示していく。
  
- 「来館者自身が判断」、白黒つけることを目的にしている施設ではない。
- 対立自体がおかしなこととか、そういうことを生む背景にあるものについて疑問を持つとか、そういうことを期待しているはず。
- 自分で考えて、その考えを育むみたいなこと。私はこの見方に賛成とか言って。

##### 【展示の内容／手法(例)】(資料8ページ)

- 5つ柱が列挙されている感じだが、教育プログラムとかエドゥケーターとか、全体にかかることで、これをどういうふうに来館者につなげていくかという別のフェーズなので、箇条書きでするようなものでない。

## 【手法等について】

### (エドゥケーター等)

- 2種類の人に関わるという考え方。どういうものをその範囲の中で集めたら良いのか、議論がスムーズかということを考えて、議論が進むようにバリエーションをちゃんと用意するような集め方をして、そういう素材・材料・資料を用意しあるいは作り込んでいくような人たちと、それを活用してどういうふうに歴史の考え方とか背景を教えていこうかと考える人たちと、そういう2種類の人たちが関わる。
- その一つ目の種類の人たちが、近現代史を扱うとなると、非常に苦しい問題を生む。この近現代史をどう評価するかという歴史学者とかの議論になってくると大変。
- 施設の中で、重きを置くべきは後者の方。教育的なエドゥケーター的な機能、どういうふうにつなげていくかというところを重点に考えた方が良い。
- 子どもたちが来る時、ガイドはあった方がいい。ただ見といてくれというよりも、エドゥケーターをいれるということは、その人が中学生プログラムとか観光客にはどういうプログラムをやるのか考える。
- エドゥケーターを重点化するというのであるのなら、専門のいろんな教育プログラムを次々打てるようなスタッフが中にいて、見学にくる学校と事前にプログラムを組んで、細かいケアができ、よりかゆい所に手の届くようなプログラムを作る。
- どのへんを中心にきて、どのへんはスルーするとか、中心にやる部分と、割と流してもらうためのバージョンとか、そういうのをエドゥケーターがプログラムを作るというイメージ。
- 学校が組織的に来たり、団体で来た時に、目的を事前に受け付けて、それでどういう風にやるかを相談してプログラムをそのつど考えてもらうような博物館は、日本にはほとんどない。そういうポジションを置いてないので。制度的に置いてないけど、それをおいてしまったらどうか。
- 映像をAかBかCか3パターンの中から選んで見てもらって、それぞれ見てくださいなど。
- 歴史について考えられるきっかけを提供するということから、ディズニーランドのような楽しいものであってもいいかも。イメージとしては、ディズニーフィティケーション的な展示もあり。
- エドゥケーターは、腕ききのプログラマーみたいな人たち。教育プログラム、教育の資料を作るプログラム、キットを作ったり、ワークショップとか。
- 従来の博物館・美術館・歴史ものの博物館もそうだが、あらかじめできた展示を使ってどんな風なプログラムを作るかというような意見を、そういうことがありえるだろうと念頭において博物館の展示を考えるというのは通常ない。それほどエドゥケーションという教育のプログラムを日本の博物館も重視していない。
- エドゥケーターとしては子どもの扱いに慣れている人が一番いい。雇用をボランティアなのか、友の会みたいなシステムを作るのか。千葉の佐倉市立美術館は、ボランティアを大量に抱え込んでいて、一銭も払っていないが、すごくアクティブに動いている。
- エドゥケーターを強化するというのは、一人でやることではないから、それを実際に動かすファシリテーターが毎日10~20人くらい、大量に必要。

### (予算)

- 現代もやるという感じでいいのか。何年に一遍とか、何かあった時に特別展があって、そのときに(常設展に)加わっていくとか。どのぐらい現代のものにスペースをとっておくか考えておかないといけない。入れ替えも含めて。予算規模はどのくらいだという話になる。
- 最低どれくらい使わないと価値はでにくいのかというのは、言っていないといけない。
- 收藏品を買うのにお金があるというよりは、設備系にお金がかかりそう。
- エドゥケーターとしては子どもの扱いに慣れている人が一番いい。雇用をボランティアなのか、友の会みたいなシステムを作るのか。千葉の佐倉市立美術館は、ボランティアを大量に抱え込んでいて、一銭も払っていないが、すごくアクティブに動いている。(再掲)
- そういうボランティア団体を重点化できるのか、そうでなければ、そういう人たちをどのような形で雇用してお金を払って働いてもらうのか。お金をそこに長期的に払っていけるような制度設計をしないとイケない。
- エドゥケーターを強化するというのは、一人でやることではないから、それを実際に動かすファシリテーターが毎日10~20人くらい、大量に必要。(再掲)

### (リニューアル等)

- 展示資料を収集する人が全体リードしながら、ある程度の所でいろいろな人たちの意見を聞きながら、



テレビの人たちとか、実際に資料を持っている人たちとか、中立的にもの考えることを旨としている人たちをいれておいてほしい。一発目は揃えていくの結構大変。けれども一旦できたら、教育の成果がどうだったか、そのために資料をどう入れ替えていくかということを年一回くらい会議やって。メンテナンスコストかかるが。

- 通常の博物館は、できる時、莫大なお金がいるが、そのあと粗末になりがち。このタイプをやっていくと、できた後もマイナーチェンジを続けていく。
- 年1回リニューアルのイメージ。大きくないと思うが。当初は2・3年に一遍結構大きいものをやらないといけないかも。
- これってすごく新しい、日本ではあまり例をみない。日本の博物館は半永久的な常設展示を10年・20年くらいやって、それで、企画展示を1か月から、1か月半くらい年数回やる。例えば、スミソニアンは、長い企画展示、短い常設展示、その間にマイナーチェンジを割とずっと繰り返していく。予算構造に規定されている部分がある。
- 毎年リニューアルかけようとか意欲的な話なので、お金が続かなくなった瞬間にコンセプトがつぶれる。

### (メディアとの連携)

- アーカイブとか使いたい。
- 近現代史なので、ニュース映像というのは、一番大きい。
- 民放も民間の8ミリ映像とか集めて持っている。
- 古いニュース映像がほしい。
- ワシントンDCの郊外に、ニュース博物館がある。ニュースだけの展示。そこが何か機会があれば、モデルになるような気がする。
- 例えばNHKとか、在阪の新聞社とか、そういうところと連動する。メディアでいろいろな考え方があるといっていただければ。いろいろなメディアの人たちとこの施設を作っていく。ある種のニュース博物館のようなものを作っていくというのはあるような気がする。
- 海外メディアも入れないといけない。各国のクオリティペーパー。
- 新聞と放送局ぐらいからは全員一人入ってもらうとか。

### (ドネーション)

- アメリカはメトロポリタンなど、入場料はなくて、みんなドネーション。推奨ドネーションがあり、基本的には無料だが、寄附もらっているという概念。
- 博物館相当施設、博物館類似施設に関して言うと、ドネーションをとっても何の問題もない。
- ドネーションで支えてほしいと。
- 例えば、たくさんドネーションすると、何か名前をうたってモニュメンタルなものを作るとか、そういう形でドネーションしてくれた人への感謝とか、その人の公共性を称揚するとかいうことも。アメリカなんかでは当たり前のこと。

### (エデュテインメント)

- 教育(エデュケーション)とエンターテインメントを混ぜた、エデュテインメントという概念、実際都市魅力ということを考えていくと、射程に入れていくべきかな。
- ハンズオン型、楽しみながら学ぶ。エデュテインメントの考え方は人が働きかけることで教育すること。

### ◆施設の立地、規模(資料10ページ)

- 広島平和祈念資料館がほぼ10,000平米。確かに見ごたえある。ビデオとかパネルとか中心だったら、そこまでスペースはいらないかも。
- 10,000平米が上限みたいな感じ。
- 具体的に例を作って、新設の場合は例えば2つぐらい広さがあっても構わないと思うが、このくらいのもので作った場合は(コストは)これぐらいだと。

### ◆資料のとりまとめについて

- ・橋爪顧問に一任することで了承。